

コロナウイルスにちなんで

ふきょうしゅうどうじょかい
マリア布教修道女会 sr. ルイザ・ゴリ

ご存じかも知れませんが、いずみブロックの社会(奉仕)活動の一つとして、プロテスタントの数人のかたとともに、2か月ごとに、私たちはある病院に行き、精神の病を患っている女子病棟を訪問します。数年前からの活動ですが、最初のきっかけは、岸和田栄光教会の牧師さんの呼びかけでした。

訪問するとき、いつも賛歌から始まります。楽しいメロディのものや、季節に合わせたものや、祈りのものなどがあります。一人のかたが、自分が好きな歌が放送されると、必ずホールに出てきてくれます。

その歌は、あの「いつくしみ深き」の歌です。どのようなことに心が惹かれるのか、静かなメロディなのか、歌詞なのか、祈りなのか分かりませんが、その姿は感動的です。彼女が安らぎと慰めを得ておられることを、その穏やかな、美しい顔から分かります。

コロナウイルスのことで、今も世界中、悩み苦しむ多くの人のことを考えると、この女性の穏やかな姿を、たびたび思い出します。苦しみの重荷に負けることなく、そこから「救いへの道」があるのだと教えてくれるかのようです。それでは、「いつくしみ深き」の歌詞を2節まで書いてみます。その言葉のなかに、悩み苦しむとき、自分にとって「救いへの道」を確かめることができるかも知れません。

「いつくしみ深き、友なるイエスは、罪とが憂いを取り去りたもう。
心の嘆きを包まず述べて、などかはおろさぬおえる重荷を。
いつくしみ深き、友なるイエスは、われらの弱きを知りてあわれむ。
悩み悲しみに沈めるときも、祈りにこたえて慰めたまわん。」

最後に、いまだに、多くの国々の人々が苦しんでいることを心にとめて、フランシスコ教皇様の「マリアへの祈り」の中からの言葉を聞きましょう。

「愛する母マリア、わたしたちがすべての人とのつながりに気づき、ただ一つの大きな家族の一員であるという思いが、世界に広がるようにしてください。アーメン。」